

学びへのまなざし

通級指導教室での子ども達との学びを通して感じた子育てのエッセンスを不定期ではありますが紹介していきたいと思います。

京都市立神川中学校 通級指導教室

担当 玉置宣子

新年度を迎え。初めての定期テストを終えて1週間が経ちました。テストも手元に返ってきています。平均点や周囲と比べるのではなく、自分の努力に対して満足できる結果だったのか、次にどうつなげるかを子どもと共に話し合っていけたらと思います。今回のテストは、緊急事態宣言下で、部活動がなかったことが、体力的には幸いだったかもしれませんが、中には生活リズムの乱れやストレスにつながっていたという人もいるかもしれませんね。日常というのは、非日常を体験してみて初めてその有難みや大切さに気付くものだといつくづく感じます。

さて、今年度も「学びへのまなざし」として、通級指導教室での学びの中で、子ども達の頑張る姿から教わったことや考えたこと等をお伝えしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

子は親の鏡

ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育つと、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言いつて育つと、子どもはみじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込みあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と

思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子

に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、

子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

『子どもが育つ魔法の言葉』ドロシー・ロー・ノルト

これは、「子どもが育つ魔法の言葉」(PHP文庫)という本に書かれている詩です。2005年のお誕生日に、天皇陛下が朗読されたことで話題になりました。私たち大人が心がけないといけないなあと感じる文章です。

この本の中に、

「子どもが思春期を迎え、自我に目覚めた時に、子どもを支えるのが親の役目です。この時期、子どもは様々な問題に直面し、自分は何者なのかと悩むようになります。親の役目は、そんな子どもが自分の特性に気が付き、それを伸ばすことができるように導くことです。そのために一番良いのは、日常生活のちょっとした合間に、【 ? 】ことです。」

さて、【 ? 】にはどのような言葉が入ると思いますか？

答えは、【子どもの話を聞く】ことです。

通級指導教室では、ここに時間をかけ、子どもの特性をしっかりと理解していきたいと思っています。

通級指導教室に関するご質問やご相談は、学級担任もしくは通級指導担当の玉置までお問い合わせください。